

平成30年度第4回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

<p>日 時 : 平成30年10月29日(月) 午後3時 ~午後4時30分</p>	<p>場 所 : 津山市役所2階 第2委員会室</p>
<p>出席者</p> <p>【委員】 藏田委員長、大山副委員長、小山委員、小西委員、菅田委員、北村委員、有宗委員、赤井委員、岡本委員、上田委員</p> <p>【津山市】 財政部長、財産活用課長、財産活用課主幹、財産活用課職員</p> <p>【傍聴人】 3名</p> <p>欠席者 西本委員</p>	
<p>1. 開会 委員10名参加で、委員会の成立を宣言。</p> <p>2. 委員長あいさつ 藏田委員長あいさつ</p> <p>3. 協議事項</p> <p>委員長 : 前回までの議論を踏まえて事務局と協議を重ねて答申書の原案を作成している。答申案を読み上げさせて頂くので、その後に委員各位のご意見を頂きたい。 【答申書(案)の朗読】</p> <p>委員 : 今年の委員会では、実際に現地を見て話し合いを重ねてきた。原案を確認したが、案を消していまのままの内容で答申としてよいと思う程に良く出来ていると考える。答申書の学区再編を含む学校プールの取り組みについては、教育委員会の関係もあり、前に進みにくいと考えているが、総論賛成、各論反対ではなく前進するよう取り組んで欲しい。</p> <p>委員 : 今回は、プール事業のみに視点を絞ったが、以後はプール以外にも全ての施設について検討し、今回のプール事業を皮切りに他の施設についても考えなければならないと思う。</p> <p>委員 : 財源的なものだけではなく、きちんと現状の運営や社会情勢等を踏まえて検討できたと思う。</p> <p>委員 : プールについての答申はそれで良いと考える。しかし、今回はプールだけに視点を絞ったが、他にも沢山の施設がある。全ての施設について効率的な運営を検討する必要があると考える。</p> <p>委員 : 今回プールについて検討を重ねることで、自分自身も勉強になった。今後は、体育館等に関しても検討が必要と考える。 心残りになるのは、マイナス的な視点からだけではなく、何か一つでもプラスに考える視点も必要だったのかなということである。施設があることによって、それを津山市の魅力として生かす方法になるわけなので、廃止・削除だけではなく、もう少し検討の余地はあったかと考える。</p> <p>委員 : 市営プールから検討していく中で、答申書に学区再編まで踏み込んだ点については、生徒</p>	

数の推移や授業のあり方も含めて、考えるべきことなので、プールのことだけが根拠のような表現となるのは、突っ込み過ぎだということになると思う。表現のしかたについては、再考の余地はあるように思う。又、弥生小や鶴山小のように生徒数を多く抱える学校もあるわけであり、文章の表現として学校プール自体を止めるよう誤解を招く表現は気になった。

また、市営プールを統廃合するとしても、プールの利用方法をまずは検討するべきで、止めろ。削れという議論のみではなく、サービスの向上や、有効活用方法についても検討の余地はあると思う。

なお、指摘はさせていただくが、委員会で協議した内容であり、全体的には答申案を支持する。

委員： 答申案は全体的には良いと考える。単純に言えば今あるプールは統廃合する。新プールを民間活施設は、学校も含めて統廃合を進めなければならない。市の財産を考えればやむを得ない事であると思う。我々委員会でできることはここまでであり、後は、市当局がどう進めていくのかにかかっている。

委員： 総論として答申の方向性はこれで良いと思う。FMの目標は、何%削減することとして掲げられているはずであり、時間的な制約もあり、答申に具体的な削減数値まで示すことが出来なかったことは残念だと思う。

委員会の範疇を離れることかもしれないが、現在の運営費用をどう削減すれば、新しいプールを整備することができるのかも検討するべきであろう。計画を絵に書いた餅にしないことが肝要である。

委員： プールについて協議を重ねてきた。その中で学校プールに触れる中で、学区再編の話も出てきた。学区再編に当たっては、児童の送迎のスクールバスの運行が必要になると思われるが、スクールバスを児童の送迎だけではなく、プール授業に利用したり、他の施設を利用する方に使ってもらうというような考えもあると思う。多方面に利用できるようなバス運行となれば、利用者増につながり、民間参入も進むのではないかと。

委員長： 皆さんから、答申書案について意見を頂戴した。頂いた意見を踏まえて、事務局と委員長で答申書案の見直しを行うこととする。答申書の見直しについては、委員長に一任という形でよいか。

委員一同： 異議無し

委員長： 今までの議論により、球は市に投げられたと考える。今後、統廃合を進め、新たなプールを整備するとして、どのような手法、視点から整備を行うのか、精力的に検討を加えていくことになるが、現段階で、どのような方向で検討していくのかを示す材料として、他都市の取り組み事例を何例か本日は用意してもらっている。

委員の皆さんに説明いただき、意見を求めたいと思う。

事務局： 【整備規模や、整備手法の異なる例として、大津市、鹿児島市、武豊町、北九州市、呉市の市営プール整備事業について、資料により説明。】

委員長 : 今後の市営プール整備への考え方を広げて頂くために聞いて頂いた。
自由な発想で、各委員の意見を頂きたい。事例に対する質問や、意見でも良い。プール整備事業を、今後どうやって津山の街づくりに生かしていくのかご意見を伺いたい。

委員 : 新たな市営プールを整備するにしても、整備費だけではなく、維持運営費用を考えなければならぬ。温水プールとするなら、津山市でも熱源の確保にゴミの焼却熱を利用することは検討できないかと思うが、立地的にも領家は困難かと思う。何か集客できる仕掛けが必要だと思う。

委員長 : 先程の事務局からの事例は、手法としての一例なので、津山は今あるものをどう活かして、独自のものを生み出すかという議論にする必要があると思う。先程の事例にあったゴミの焼却熱利用は、武豊町がたまたまゴミ焼却施設の建設時期と重なったことで、焼却熱利用という手法となっただけであり、津山では、何と何を組み合わせて形作っていくのか。先行事例のままで、そのまま利用するという訳にはいかない。地域のピンチをチャンスに変える発想が必要である。いかにしてバリューを高めていくのか。「売り」を生み出すためにはどうするのか、また、必要な投資をどう求めていくのかについても検討する必要がある。

委員 : 何を目的に設定するかで、事業の内容は変わってくる。教育を主体にするのか、健康づくりなのか。それにより事業内容も事業規模も変わっていく。

事例にあった学校プールに、市営プールを利用するとして、バス送迎を前提とするなら、合併後、行政区域も広がっており、立地も限定されてくる。適地が無ければ、用地取得費も発生するだろう。

先日、クリーンセンターに家庭ゴミを廃棄に伺ったが、ゴミの焼却熱を利用することは、今からでは困難であろうか。アメリカのある地区では、ゴミの焼却熱を利用した発電事業で、電気料金0円を実現している。新規事業をするならば、夢のある事業でなければならない。

事業を実施する上で、PFIを実施しなければ、コストは増大するが、民間も一度に費用負担することは困難なので、長期的な資金調達が必要になると思う。

委員 : ゴミの焼却熱利用は、再考の余地があるのか検討してほしい。
新市営プール整備を行うとすれば、その立地の検討は、現在の市営プールをどうするのかによって変わってくると思う。また、新市営プールを整備する際には、整備後のメンテナンス性を考慮したものを整備しなければならない。第2のガラスハウスになっては困る。

PFI・BTOなど手法を検討しなければならないが、民間からの有効な提案がなければ、PPP手法を取り入れることができず、結局、指定管理料などの予算を増加させて再公募といった事例が見られている。

民間事業者からの提案を柔軟に受け入れる仕組みがないとPPPは進まないと思う。

委員 : 津山市でプール整備を考えるなら、現在の3施設のどの場所を候補に考えるのか。その他では、バス利用を考えれば、アルネ周辺や、アリコペールの辺りなのか。リージョンセンター周辺も候補になると思う。

委員 : 新しいものを作るのは、作れば良いが、現在既に民間プールはある。それも含めて企画を

進めていくべきではないか。民間プールにしても、日中の利用は少ないと考える。その上でどうしても不足する部分を補うものとして検討すれば良いのではないか。

委員長 : 市営プールを整備すれば、市のコストとなるが、民間プール利用は、民間にとっては、新たな売上になる。又、学校の授業で使用すれば、専門指導者の指導を受けられるメリットもあり、教員の負担軽減にも繋がる。

新たなプール整備を行う前に組み合わせを検討する余地はあるように思う。プール事業者の経営にもプラスに働いて、トータルのコストで考えれば行政にも民間にもメリットがある。

委員 : 津山市には民間プールが複数あるので、あるものは積極的に利用すれば良いと思う。民間プールは屋内温水プールなので、学校プールよりも使い勝手が良い。専門指導者による水泳指導は子ども達にとってもメリットになる。市民の健康増進のための新市営プール整備は、あまり偏った場所に整備されれば、使い勝手が悪くなるので、候補地は慎重に検討していただきたい。

委員 : 今回視察に伺った小学校は児童数の多い学校であり、プールの利用状況も利用期間中はフル回転の状態だと聞いている。しかし、例えば、久米地域の児童数は少ない。先程事務局から事例照会のあった武豊町は町域が狭いのか。広大な面積を有する津山市ならプールへの移動にも時間を要する。逆に近ければ歩いて行けばいいと思う。来年度、久米の秀実小学校がプール改修予定と聞いているので、まずは、秀実小学校がレインボープールを授業に利用してみれば良いのではないか。

委員長 : 試験的にやってみることは良いというのは、良い意見だと思う。いくら検証を重ねても、やってみないと分からないことがある。まず、試験運用してみて、合わないものがあれば改善していけば良い。

委員 : 校外プールを授業利用する場合も、必ずしも送迎バスに拘らず、小学校はバス。近隣の中学校であれば、自転車で移動することも検討できる。

市営プールとして、広く市民にサービスをていきょうするのであれば、津山市に遊泳プールが不要とは思わない。

委員 : 校外プール利用の為に送迎バスを運行するのであれば、送迎バスとしての利用だけではなくて、追加の機能を設けるべきである。高齢者向けの福祉バスとして同時に利用するような運用も考えられる。

委員長 : うまく車両利用を行えるのであれば、送迎と公共サービスを組み合わせた運行も可能となると思う。

委員 : 以前、津山市にもゴルフ場があった。ゴルフ場跡地には、ショッピングセンター、介護保険施設、200戸もの団地を整備するような計画と聞いていたが、現在は、僅かに太陽光発電パネルが並んでいるだけ。民間と行政がうまく連携していければ、広大な敷地の有効利用が可能となると思う。

委員 : 自分が行っている事業は小売業。主に女性をターゲットにしている。現在の風潮としては、「食」、「美」、「健康」がキーワードになっている。特に健康は、現在の高齢社会を考えれば社会問題化している。いかに健康寿命を延ばすかは大きな課題であるが、プールは健康づくりに利用できる有効な施設である。

今後の津山市を考える上で、「住みたい町」、「行ってみたい町」を目指さなければならない。現在の津山市の人口規模で、津山市の中だけで完結する事業を検討してもじり貧である。県北全体を捉えてようやく事業として成り立つ。広域連携を視野に検討していく必要がある。

津山市に人を呼び込むためには、県北の魅力を考えて、広域から人を集めなければならない。キーワードは健康づくりにあると思う。

委員長 : フィットネスのジャンルでは、有名なブランドがある。では、プールのジャンルで有名なブランドは何かあるだろうか。

津山市民や、県北の人が魅力を感じて、行きたいと思うプールがはたしてあるのか。

ジムには様々なものがある。では、プールでそのようなブランド化されたものがあるだろうか。それについて研究していけば、事業としても成り立つのではないか。プールを発信できるプレイヤーの存在があれば良いのだが。

委員 : 高齢者のためのプール利用ができれば良い。

津山市には、介護予防に「こけないからだ体操」の考案者の安本氏の存在がある。プール版「こけないからだ体操」のようなものに取り組めないだろうか。

委員 : 例えば、前年1年間、医療機関への受診の無かった方には、市営プール利用料の助成を行うような取り組みはどうだろうか。

委員長 : 新たなプール利用として、介護予防事業に利用するという選択は実際に制度化をすることができそうではないか。

委員 : 美作市の事例であるが、公民館で作業療法士による介護予防の体操などを実施している事例がある。

委員 : こけないからだ体操のように地元で行えるものと違って、プールに行くための移動手段がまずは必要となる。更に、プールとなれば、水着に着替えなければならない。高齢者には水着への抵抗があるのではないか。

委員 : 以前と違い高齢者でも、水着にはある程度慣れてきていると思う。

委員 : 自分もお腹が出ているから水着には抵抗はある。しかし、近年では、ジムに通うことがお洒落で、お手軽感も魅力となっている。別に着替える必要もなく、トレーニングウェアでそのまま出かけて、そのまま帰れるくらいのところもあると聞いたことがある。水着は濡れるからそうはいかないかもしれないが、お洒落さを演出できれば、利用者は増えると思う。

委員長 : カルチャーができれば意識は自然に変わってくる。

課題をチャンスに捉える。誰かと手を組んで解決していくことがPPPの原点である。今後のプール事業について、ご議論頂いたことを、実際の取り組みに役立てて頂きたい。

委員： 文化施設全体の問題として捉えれば、プールも文化施設のひとつである。例えば、書道教室、音楽鑑賞、それら一体的なものとして整備し、送迎バスを運行すれば、それら全体の事業も成り立つのではないか。

委員長： 高齢化も少子化も課題ではなく、チャンスと捉える発想が必要。子どもが減ることは、一人ひとりの児童に手厚く対応できると捉えれば良い。
今後の市営プール再編には本日の議論の成果を残して頂きたい。

(2)その他

特になし。

8. 第5回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

平成30年2月頃 午後から

9. 閉会

副委員長あいさつ